

## 回復・再生・記憶から

コレクションは、人のライフスパンを超えた時間を生きていく。自然の素材からかたちが見出され、制作の過程で名付けられたものが、作り手を離れたところで展示され、人々の心を動かす。自然災害によって物理的な保存の危機に瀕した作品は、強い信念と高度な技術によって手当されるが、再び展示室へと復帰した時、そこには回復・再生・記憶をめぐる新たな問いが生じてくる。

この展示では、東日本大震災における「文化財レスキュー」で蘇った石巻市博物館の現代彫刻作品、舟越桂「ラムセスにまつわる記憶」と本学所蔵の民俗資料から、その問いに向き合ってみよう。

本展監修者  
武蔵野美術大学 美術館・図書館副館長  
加藤幸治

## 2024年度美術館休館中特別企画シリーズ ムサビ版「驚異の部屋」—眠らない獅子計画 Musabi's "Wunderkammer 2024": Never Sleeping Lion

「改装休館?」。だから、眠らずに「甦るんだよ」、私どもは。  
ミュージアムも創造だからさ。  
美大生諸君、「作ってなんぼ」は結構なことだが、  
「作る」ためには「見る」ことが大事なんだろ。  
「世界や宇宙の根っこが見えない者に、創造など土台は無理」だ。  
さあ、必見。

美術館・図書館長 新見隆

### 年間のラインナップ

- vol.1 侵犯、越境、超越するゲートの手  
—さかぎよしお、関根直子、徳丸鏡子、留守玲  
会期:5月13日[月]—6月15日[土]
- vol.2 回復・再生・記憶から—石巻市博物館・連携展示—  
会期:7月1日[月]—8月10日[土]
- vol.3 和語表記による和様刊本の源流II  
会期:9月2日[月]—10月19日[土]
- vol.4 彫刻の威力—戸田裕介、冨井大裕 二人展  
会期:11月4日[月]—12月7日[土]
- vol.5 ヴァナキュラー・比較文化論  
—国立民族学博物館・特別展サテライト展示—  
会期:2025年3月31日[月]—6月3日[火]  
会場:13号館2F民俗資料室ギャラリー

会場:図書館展示室、大階段ほか  
開室時間(図書館展示室) 10:00—17:00  
※最新の開館情報はwebサイトをご確認ください。

## 武蔵野美術大学 美術館・図書館

〒187-8505 東京都小平市小川町1-736  
tel. 042-342-6003

<https://mauml.musabi.ac.jp>

✕ @mau\_m\_j



2024年度美術館休館中特別企画シリーズ

## ムサビ版「驚異の部屋」—眠らない獅子計画



舟越桂《ラムセスにまつわる記憶》1986年 石巻市博物館所蔵 © Katsura Funakoshi

# 回復・再生・記憶から

vol.2

石巻市博物館・連携展示

From Restoration, Revitalization and Memory:  
Collaborative exhibition with Ishinomaki City Museum



2024  
7|1[月]→8|10[土]

武蔵野美術大学図書館展示室、  
図書館大階段ほか

図書館展示室 開室時間 10:00—17:00

※大階段などに設置された作品は、図書館の開館時間に合わせてご鑑賞いただけます。  
※最新の開館情報及び夏季休暇期間中の開館時間は、図書館webサイトをご確認ください。

休館日 日曜日  
入館料 無料(学内限定公開)  
主催 武蔵野美術大学 美術館・図書館  
企画監修 加藤幸治

連携協力 石巻市博物館

MUUM&L  
Musashino Art University Museum & Library

## 2011年の東日本大震災における文化財レスキュー活動

「文化財レスキュー」とは、指定・未指定を問わず、被災地にとって文化財と位置づけられるものを対象に、被災したそれらを救出することです。一連の活動として被災資料に対し、除泥・滅菌・脱塩・脱臭等の処理を施し、安定的に保存できる状態に戻すための作業を行い、元の館に戻るまで安定した環境において一時保管するなどの支援がなされました。

石巻文化センター（被災当時、宮城県石巻市南浜町に所在）では、2011年度中に計231件の美術作品が館外に搬出され、宮城県美術館において応急処置が行われました。応急処置には、東北大学や東北芸術工科大学ほか、全国美術館会議会員館19館40名が参加し、その後の修復作業へと引き継がれていきました。追加保管が生じたものを含め計246件が対象となっています。



震度6強の揺れの後、海岸から約200mの距離にあった石巻文化センターに津波が襲来し、1階が床上3.3mまで浸水、学芸室や収蔵庫などが被災しました。当時、文化センターに執務室を置いていた歴史文化資料展示施設整備対策室の学芸員が避難中に津波にのまれ亡くなるなど、甚大な被害がありました。

4月20日、文化庁、国立文化財機構職員、県内博物館・美術館関係者らが石巻に集まり、文化財レスキューが開始されました。歪んで開かなくなってしまった収蔵庫のシャッターを切断したり、瓦礫を撤去したりしながら、収蔵資料の現状が確認されました。

特に大変だったのが、収蔵庫まで入り込んだパルプでした。多くの資料がパルプを含む津波をかぶり、泥をかきわけながら資料の検索が行われました。電気が不通のなか、支援物資として持ち込まれた投光器で足を照らしながら、埋蔵文化財の発掘調査で使用するスコップ等を用いて、館外までの搬出路を確保すべく、瓦礫の撤去作業は進められました。

館外に搬出された美術作品は、その場で個別のレスキュー番号を付与され、作家名・作品名を記載したボードと一緒に撮影し、簡易な管理リストが作成されました。記録された作品は梱包され、次の応急処置を行うべく、宮城県美術館へと移送されました。被災した美術作品は、清浄な環境が保たれた美術館内に持ち込むことはできません。宮城県美術館の全面的協力を得て、屋外倉庫を提供いただき、応急処置から自然乾燥まで約2か月かけて作品の安定化が進められました。

石巻市博物館



2021年にリニューアル・オープンした石巻市博物館（武蔵野美術大学図書館と同様、藤本社建築設計事務所による設計）



A 被災した石巻文化センターと津波で製紙工場から流入したパルプ



B ブラシで応急的なクリーニングを施す大学生ボランティア



C 津波による海水で汚損したコレクション台帳  
A・B・Cの3点撮影：加藤幸治 2011年